

## 2021 ミニバスケットボール競技規則の取り扱いについて（抜粋資料）

次の項目は、実際によく起こりうる事象を抜粋して記載しています。ほかの取り扱いも大切ですが、次に記載している内容については特に確認して理解をお願いします。

### 第9条 ゲーム、クォーター、OTの開始と終了

9-3 両チームとも5人ずつのプレーヤーを揃えてなければ、ゲームを始めることができない。

### 第26条 3秒ルール

26-1-1

変更前：3秒ルールは、プレーヤーがボールを受け取ろうとして制限区域内に積極的に入っているときにはきびしく適用されなければならない。反対に、プレーヤーがチームプレイに直接参加していないで、偶然に制限区域内に入っていたときには適用する必要はない。この規則はできるだけ寛大に適用されることが望ましい。

変更後：ライブのボールをコントロールしているチームのプレーヤーは、ゲームクロックが動いている間は、相手チームのバスケットに近い制限区域内に3秒以上とどまることはできない。

### 第41条 チームファウル：罰則

41-2-2

変更前：オフェンス側のプレーヤーもディフェンス側のプレーヤーもからだの触れ合いによって相手のプレーを妨げたときは等しく罰せられるという原則に従って、チームファウルの罰則はオフェンス側のファウルにもディフェンス側のファウルにも適用される。

変更後：ライブのボールをチームコントロールしている、あるいはボールを与えられることになっていたチームのプレーヤーがパーソナルファウルをしたときは、チームファウルの罰則は適用されず、相手チームのスローインになる。

## 3. 廃止された規定 ※条項は「2007～ミニバスケットボール競技規則」による。

### 第10条 スコアラー、アシスタントスコアラー

・スコアラーは次のことを合図して審判に知らせる。1チームの各クォーター4個目のプレーヤー・ファウルが宣せられたとき。

### 第25条 ボールの扱い

・ボールをわざと相手チームのプレーヤーに当ててプレーした場合はコーチ及びプレーヤーに対して注意を与え、適切に処置する。

## 第 29 条 ボールをアウトにすること

- ・わざと相手にボールを投げつけたりしてアウトにしたときは、審判は相手チームにボールを与える

## 第 40 条 スローインの方法・スローインのときの注意

・スローインの規定が守られなかったときには相手チームにスローインのボールが与えられる。しかし、審判は注意を与えてスローインのやり直しをさせることもできる。

・スローインの規定が守られなかったときに審判は注意を与えてやり直しをさせることもできるという規定は、プレーヤーの技術と規則に対する知識レベルを考慮してのものである。この配慮が必要なゲームであるかどうか、ゲームをはじめる前に両チームの共通理解を得ておけば公平にゲームを進行させることができる。

以上